



イソップ童話「三人のレンガ職人」

校長 出口 晴基

本年度も間もなく終わりを迎えます。日頃より、本校の教育活動に対しまして、ご理解ご協力、そして力強いご支援をいただきありがとうございます。心より感謝申し上げます。さて、さる9日の中学部卒業証書授与式、17日の小学部修了証書授与式に際しましては、保護者の皆様、地域などご来賓の方々にご臨席をいただきありがとうございました。114名の9年生、同じく114名の6年生がそれぞれの進路に向けて胸を張って巣立って行きました。今後も地域生活の中で、児童生徒たちに温かいご声援をいただけますよう、よろしくお願いいたします。

イソップ童話に「三人のレンガ職人」というお話があります。

～昔おかし、ある旅人が暑い夏の日に街はずれの道を歩いていると、一人の男に出会います。その男はとても難しそうな顔をして、淡々とレンガを積んでいます。旅人は尋ねます。「あなたは、ここで何をしていますのですか？」と……。そうすると、その男は怪訝そうな顔で答えます。「見ればわかるだろう。レンガを積んでいるんだよ。夏の暑い日も、凍えるような真冬も、雨が降っても、台風が来ても毎日毎日一日中レンガ積みさ。なんで俺はこんな事をしないといけないんだろう……。ついてない。」この言葉を聞いて旅人は「大変ですね。」と一言だけ残してその場を立ち去りました。

しばらく歩いていると、今度は一生懸命レンガ積みをしている男に出会いました。二人目のこの男に尋ねます。「あなたは、ここで何をしていますのですか？」と……。「俺はここで大きな壁を作っているんだ。この壁を作るのが俺の仕事なんだ。」旅人は、「大変ですね。」と声をかけました。すると男は、「大変なんてとんでもない。この仕事のおかげで家族を養っているんだ。ありがたい限りだよ。」旅人は「そうですか、頑張ってください。」と声をかけ、また歩きはじめます。

また、しばらく歩くと、さらにもう一人レンガ積みをしている男に出会います。「あなたは、ここで何をしていますのですか？」と……。すると男は嬉しそうな顔をしてこう答えます。「あゝ俺のやっていることか？実は大聖堂を作っているんだ。きっと歴史を変える凄い事に携わってる。」この言葉を聞いて旅人は「大変ですね。」と声をかけます。するとこの男は「大変なんてこれっぽっちも思っちゃいないさ。この大聖堂が完成したら、何人もの人が救われるんだよ。こんな素晴らしい事に関わられて俺は幸せ者さ。」旅人は、元気いっぱい歩き続けました。

この三人は、レンガを積むという全く同じ仕事をしています。しかし、仕事に対する意味付けが全然違います。目標を持って取り組むこと、モチベーションを高くすることで、周りも幸せな気持ちになります。

来年度霧が丘学園は、小中一貫校となって9年目を迎えます。これまでの取組を大切にしながら、教職員一丸となって「子どもたちのために」を第一に、努力してゆきたいと思えます。